

漏水調査 よくある質問 Q&A

Q1 配管長の計測は漏水発生中でエアーが配管内に混入した場合でも距離計測可能ですか？

A： 管路長計測は、完全に配管内の水を抜きホワイトノイズ法にて測定するものです。

Q2 漏洩箇所確認において、複数の漏洩が同系統の場合でも、距離測定可能ですか？

A： 基本的に同系統において、最大に漏れている箇所一箇所です。

Q3 小さな漏水でも測定可能とありますが、100mmの配管にて1ℓ/分程度でも測定可能ですか？

A： センサー取付け位置が50m以内であれば可能です。(現場の状況により異なります)

Q4 測定に対し、限界距離はありますか？

A： 50m以内 メーカーが示している距離は、100mですが経験上50mです。

(現場の状況により異なります)

Q5 見積りの備考欄に20mmのボーリング(穴)をあけると記載がありますが、何のための穴ですか？

A： 漏水箇所確認のため、配管に音聴棒を近づけ噴射音を確認するためです。

Q6 上記穴ふさぎに専用ゴム栓にて塞ぐとありますが、その後の処理方法を教えてください。

A： 路面上で漏水箇所と判明した場所に穴をあけるため、基本的に修理時に必要な掘削範囲内であり、修理時に復旧できます。ただ、穴をあけた場所が漏水箇所でない場合や漏水調査に苦労した場合、ゴム栓のままの処理となります。(現場の状況により異なります)

Q7 漏水調査特定の確度について教えてください。

A： 100% (現場の状況により異なります) 騒音・設備機器音等

Q8 コンプレッサーでの加圧圧力について教えてください。

A： 最大0.8MPa

Q9 コンプレッサーにて0.80MPaを加圧した後、漏水量が増えたりしませんか？

A： 現場の状況に応じて、空気圧を減圧し調査しています。

配管が腐食してる場合や劣化が激しい場合、漏水量が増える可能性はあります。

Q10 今回の見積りは、相関式(センサーログ式)での漏水探査方式ですか？

A： 漏水箇所を発見することが目的であり、調査方法は多種多様です。すぐに発見できる場合、相関式(センサーログ式)を使わない場合もあります。

Q11 漏洩箇所のデーター処理は持ち帰りではなく、その場で漏洩箇所がわかるのですか？

A： 現場処理です。